

◇ 新刊紹介

小栗栖檀林

上島日珠著 久保日参増補

昭和五年十一月 大隆寺発行

A5版二一三頁 頒価三千円(送料とも)

小栗栖学林とは、法華宗勝劣派が万治元年(一六五八)洛南小栗栖に創始した学林のことである、檀林の開基つまり初代学長である日承上人は越前国丹生郡小倉村出身の高僧である。本書はこの学林の歴史、制度、学風などについて述べている。

著者上島日珠師は今立郡北新庄村の出身、大正八年から昭和十一年まで丹生郡織田町蓮成寺の住職を勤め、その間学林長の職にあつた人である。師は昭和五年日承上人第二百五十遠忌に当り、その記念として本書を出版した。

今回日承上人三百遠忌を迎えて、久保日参師により多くの資料を増補して再版された。

単に宗門関係者だけでなく、仏教史および教育史に関心を有する人に一読をおすすめする。希望の方は丹生郡朝日町岩開・久保日参氏に申込まれたい。
(杉原丈夫)